

経営者が語る
「経営の転機」
No.131

総合解体業トップをめざす、フジムラ

ビル、工場、コンビナートなど大型案件中心に多くの実績

株式会社フジムラ（代表取締役会長兼社長）**藤村一人**



解体業のプロフェッショナル。工事品質はもとより、 環境／労働安全衛生に関わる諸施策も徹底追求 コンプライアンスへの取り組みにも高い評価をいただく

建設業免許取得、 飛躍への足がかりに

父藤村洋輔が昭和52年、脱サラして興した藤村組は、木造家屋の解体や小さな建物の基礎の建設工事などで事業をスタートさせます。55年には、(有)藤村組として法人化を果たしますが、二次下請・三次下請の体質に変わりはなく、仕事エリアも地元江戸川区や隣接する江東区、千葉浦安エリアなどで精一杯。何とかギリギリの採算ラインで経営を回していたのが実情だったようです。

ならびに将来展望へと思いを巡らせます。真つ先に思い知らされたのは、経営内容がかつてとほとんど変わっていないことでした。

これでは将来は描けないと考え、

(1)百パーセント二次下請・三次下請、百パーセント民間工事依存からの脱皮。

(2)一次下請・解体元請としての地位確立、ならびに公共事業への進出。

(3)木造とは距離を置き、ビルなど大型案件へとシフトしていく。

(4)仕事エリアも広く都内全域や関東、案件によっては全国展開をめざしていく。またその前提として、

(5)まずは建設業免許を取得する。

以上のような考え方をとりまとめ、初代・洋輔へ具申。そして平成4年には、東京都知事より一般建設業許可が下ります。これでやっと飛躍への第一歩を踏み出すことができた。そんな

な思いに浸ったものです。

〓二次・三次下請から 〓一次下請・元請への脱皮

平成6年、入社4年目の26歳にして専務取締役に任せられ、経営の一翼を担うように。前後して、先ほど申し上げた経営ビジョンの具現化へ、本腰を入れて取り組みを開始します。

公共工事の入札参加資格獲得を期し、書類の書き方から教わりつつ奔走。東京23区、東京都各都局、国の各省庁へ、申し込みを駆けずり回りました。その行動が功を奏し、業者ランクとしては下位ながらも次々に入札資格を取得していきます。ただし実際の仕事に結びつくまでには、まだ少々の時間を要します。

民間需要獲得へ向けた営業活動にも同時に注力。ワープロ打ちの会社



紹介・事業案内資料を携え、目を付けたセネコンさんやメーカーの工場などを訪問。なかなか成果を得られず、苦悶しましたが、1〜2年も経つた頃からようやく、あちらこちらから声をおかけいただくように。「努力は報われるものなのだなあ」と実感させられたものです。

平成8年には、東京都発注の初の公共事業の落札に成功。社内で喜び合ったのをいまだに、よく覚えています。続いて同9年、某上場メーカーの千葉県内にある工場の解体工事を受注。建坪約1万5千坪、工事予算1億円超というとてもないスケールにも怯むことなく挑み、要求工期内に

無事、竣工。解体の藤村組、ここにありーと広く業界へ示す出来事となり、その後の受注活動にも好影響をもたらしてくれています。

平成11年、㈱藤村組から㈱フジムラへの商号変更と同時に代表取締役社長に就任(31歳)後、しばらく経つてからの大きな思い出の出来事として、京浜コンビナート内にある油槽所の解体工事があります。特殊な工事分野であり、ここでの経験と実績を通じて培ったノウハウがその後、北海道から九州まで全国各地のコンビナート関連の解体工事受注へとつながっています。

平成15年には東京都知事許可特定建設業、平成20年には国土交通大臣許可特定建設業の資格を得て、解体元請としての地歩を着実に固めていきました。

環境／労働安全衛生への取り組みへ、高い評価

解体工事業の社会的責任として最も重要なテーマの一つが、環境／労働安全衛生への取り組みであると考えます。安全対策、公害防除、建設副産物の適正処分などに心血を注いで



きたのが、私どもフジムラです。とりわけビジネスコンプライアンスとの向き合い方に関しては、関係官公庁とも緊密な連携を図りながら法令の遵守と徹底に努めてきました。

平成17年には環境マネジメントに関する国際標準規格ISO14001・2004、同25年には労働安全衛生マネジメントに関する国際標準規格OHSAS18001・2007、令和元年には労働安全衛生マネジメントに関する国際標準規格ISO45001・2018(OHSAS18001から切り替え)をそれぞれ取得。また、環境先進国と評されるドイツの同業トップクラスとの間で定期的な交流機会を持ち、環境／労働安全衛生環境に関する情報交換を行うなど、グローバル感覚での取り組みを推進しています。現場目線を通じた、環境／労働安全衛生関連の技術開発にも注力してきました。重機作動時の地盤振動を抑制する装置『MTMD』は、産機免振装置大手、および工学系大学との



共同により実用化したものです(特許取得)。また、破砕機での解体時におけるハイテンションボルト・コンクリートガラ、鉄筋破片などの飛散による事故を防止する『Fシールド』は、建機販売・レンタル大手との共同により、開発したものです(特許取得)。さらに、搬出入庫架台への昇降時、作業員が荷台レベルで待機できるようにした『Fステージ』なども独自に実用化。自社のみならず、解体業界全体にお役立ちできることを願っています。

国立競技場の取り壊し工事なども手がける

ここ10年来の工事实績の中から、社会的な関心・注目がとりわけ高かったと思われる事例をピックアップしてご紹介しましょう。

まずは東京日本橋、安産の神様として敬われる水天宮社殿の解体工事です。建築物ひしめく都心部での困難な工事でしたが、指定納期内(平成25年10月～同26年1月)に見事やり遂げて各方面からお褒めの言葉を頂戴しました。

続いて、国立霞ヶ丘陸上競技場の解体工事です。2020東京オリン



ビック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の建設に伴い、旧国立霞ヶ丘陸上競技場の取り壊しが行われました。いくつかに分けられた工区のうち、私もフジムラは北工区を受け持ちました。解体専門が元請けの一角に選定されたことに對し、社会の驚きも大きかったようです。短い工期（平成27年1月～10月）のなか、全社一丸となり、無事故・無災害にて竣工を迎えることができました。

もう一つが、千葉・市原ゴルフ練習場の倒壊鉄柱撤去工事です。令和元年・房総半島台風（9月襲来、台風15号）の強風により、千葉県市原市五井のゴルフ練習場でネットを支える鉄柱が倒壊。住宅破壊、負傷者も出るなど大きな被害がもたらされました。ニュースを見て住民の皆さんの困っている姿に居ても立ってもいら

れなくなり、私もフジムラでは市原市を通じて、倒壊鉄柱の無償撤去支援を申し入れました。被害者住民説明会の場で賛同を得て準備工事、本体工事へ。11月中には事故もなく、工事完了となりました。

実は私もでは、10数年前から地元江戸川区との間で「災害時における重機機材およびオペレーターの供給に関する協定」を結ぶなど、解体業者にふさわしい地域貢献活動に力を入れてきた経緯があります。千葉・袖ヶ浦市にも拠点（千葉事業所）を構えている関係上、江戸川区同様に地元意識を有しています。会社全体としての受注工事案件の進捗状況に照らし、重機ならびにオペレーターに比較的余裕があった。また滅多に遭遇できない工事事案であり、担当監督・オペレーターにとっても貴重な体験を得られる。そんな経営判断も働き、無償支援に踏み切ったものです。被害者住民の皆さん、また行政サイドからも大きな感謝をいただいたのは幸いでした。

さて、解体業界を取り巻く事業環境は、高度成長期に建てられた多くの建造物が寿命を迎えつつあるなど、今後も堅調に推移していくことが予想されます。私もフジムラは、解体専門としてのプロフェッショナル意識をもって、一案件一案件に精一杯、取り組んでまいる所存です。



藤村一人 ふじむら かずひと

昭和42年、東京・江戸川区生まれ。高校を自主退学後、陸上自衛隊に入隊。施設科部隊に2任期4年間在籍。平成2年、陸自を任期満了により除隊。家業である解体業、(有)藤村組に入社（22歳）。同6年、専務取締役。同11年、(株)藤村組から(株)フジムラへの商号変更と同時に代表取締役社長に就任（31歳）。令和2年、代表取締役会長兼社長に就任

創業	昭和52年	設立	昭和55年
事業内容	解体工事全般 (ビル、工場、コンビナートなど)		
所在地	〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-20-77 フジムラBLD1		
電話	03-3688-5848		
URL	http://www.kaitai-fujimura.co.jp		
資本金	1億円		
売上高	50億6788万円		
営業利益	10億7507万円		